

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 23 年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成 23 年度～平成 25 年度
5. 課題番号

2	3	5	2	0	2	3	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 富永太郎直筆原稿の画像データベース化による文学テキストの生成研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 1 4 0 1 0 8	スギウラ シスカ 杉浦 静	文学部	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
9 0 1 5 7 7 2 7	ムナカタ カズシゲ 宗像 和重	早稲田大学・政治経済学術院	教授
6 0 2 5 3 1 7 6	イシカワ タクミ 石川 巧	立教大学・文学部	教授

9. 研究実績の概要

本研究の目的は、富永太郎資料のデータベース化を通じて、人文科学研究領域における画像データベースのあり方を検討し、優れた研究支援ツールの開発を目指す。さらに、作成されたデータベースを活用して、直筆資料と活字情報のクロスする研究に着手することを目指している。

初年度は、「中島敦文庫直筆資料 画像データベース」（神奈川近代文学館作成）や「小林多喜二 草稿ノート・直筆原稿」（雄松堂）を検討して、さらなる利便性や翻刻の必要性等を検討した。その結果、翻刻版を草稿写真と対照できるように表示する画面を作成してみることに決定した。また、翻刻については、草稿写真が表示されるのであるから、ディプロマティックな生成批評版として作成する必要はなく、推敲過程、さらには加筆修正や削除の過程を記号を用いて示す校訂版を作成することを決定した。

またこの草稿の中には、ひとつの詩のバリエーション（あるいは逐次稿）が多数含まれていることが明らかになったので、それらの草稿の関係を示すことが必要との認識に立ち、その方法を検討した。草稿一枚毎に集積されるデータの一つとして、逐次稿の項目を作成することが一般だが、更に踏み込んで、逐次稿 1 から逐次稿 2 へとリンクを張るような方式は可能かどうかの検討を進めることにした。これらの検討をふまえながら、草稿の翻刻、判読へと作業が進んだ。さらに、翻刻と併行して、詩毎の生成過程の検討と開始した。その成果の一部は、「富永太郎「鳥獣剥製所」の生成」（1）として、「大妻国文」43号（2012・3）に発表した。